

さまざまな投資スタイルの中で

普遍的価値 改めて金に脚光

いま、金（ゴールド）による資産運用が注目を集めています。

米国のサブプライムローン破綻に端を発する世界金融危機の勃発以降、世界中でさまざまな投資資産がその価値を大きく減らしています。例えば株式に関しては「日経平均がバブル崩壊後の最安値を更新」といったニュースが繰り返し多くのメディアで取り上げられたのは記憶に新しいところです。もちろん株価の下落は日本だけにとどまりません。しかしそうした中で、金はひとり史上最高値に近い相場を維持しているのです。

高値の理由は買いたい人がそれだけ多いからです。もちろん世界レベルの話で、その動機は安全への逃避にほかなりません。

金は有史以来、人類が普遍的な価値を認めてきた唯一の資産です。金融危機で米ドルへの信頼が揺らいでいるいま、投資家はどこの国の通貨とも交換が可能な金に救いを求めているのではないのでしょうか。金が「セーフ・ヘブン」と呼ばれるゆえんです。

コインや株式、ETF

金投資には多様な方法があります。



だれもが一番に思い浮かべるのは金貨やネックレス、あるいはゴールドバー（金の延べ板）の購入でしょう。地金商から現物を手に入れ、値上がりするまでじっと金庫に保管しておくのは、きわめてわかりやすいやり方です。

最近テレビCMが目につく純金積立

という投資方法もあります。毎月3000円なり1万円なりの一定額を決めてコツコツ買いためていく方式です。相場が高いときは少なく、低いときは多めに買えるのが特徴で、結果として相場変動のリスクを軽減できるメリットがあります。

金鉱山会社の株式を買う方法もあります。鉱山会社の株価は金価格が上がれば同じように上昇します。しかしその多くは外国企業であるために、株式投資になじみが薄い投資家には手が出しにくい面は避けられません。そうしたデメリットを解消したのが金鉱株ファンドと呼ばれる商品です。

最近では金ETF（上場投資信託）という投資商品も生まれています。金地金の現物で運用する投資信託を有価証券化して取引所に上場したもので、比較的小口の投資が可能なおことで投資家の注目を集めています。

金先物取引のメリット

先物取引も有効な金投資の手段です。

先物取引は比較的少額の投下資金で大きなリターンを期待できる特徴があります。例えば、金地金1%の購入には約

新・商品先物入門

日本商品先物振興協会

小島 栄一

300万円が必要です。しかし金先物「標準」取引ならば最低15万円（3月30日現在の）資金で同じ1%分の取引が始められます。つまり投下資金に対する潜在的な収益性の高さが機能として組み込まれているわけで、それは先物取引が外国為替証拠金取引（FX）と同じ証拠金取引だからです。

ただし証拠金取引は投下資本に対する収益期待値が高いのと同じ理屈で、損をした場合には資本を大きく失う可能性も秘めています。従って先物取引をする場合には、ぎりぎりではなく、資金に余裕を持って臨むことが重要です。

昨年夏には100%単位の金先物「ミニ」取引も始まっています。こちらは最低2万円から取引が可能です。あらかじめ「〇〇円以上の損になったら自動的に取引をやめる」という注文の出し方もできます。

まずは金ミニ取引で練習をしてみるのには良いアイデアかもしれません。